

美唄市男女共同参画推進協議会会報

デュオ
D U O



デュオとはイタリア語で
「二重唱」「二重奏」を意味します。

発行：美唄市男女共同参画推進協議会事務局

第61回女性大会に参加して

昨年10月27日、総合福祉センター（ぽぷら）において開催されました美唄市婦人団体連絡協議会と美唄市男女共同参画推進協議会の共催で行われた「女性大会（講演会）」で、救急救命とAED講習も行うというので参加しました。美唄市消防署救急課・救急グループより講師として救命士の資格を持つ佐藤和敏消防司令補、高木真也消防士長の2名をお迎えし、AED（自動体外式除細動器）の使用、胸骨圧迫、人工呼吸による救急救命についての講話をいただきました。



まずは、消防の救急救命の現場について、美唄市には、心臓の薬を扱ったり点滴したりなど救急の技術や専門性の高い救急救命士が12名いるそうです。救急の出動件数は多い時で年間約1,200件。交通事故などでかなり重症なけが人がいる救急の際には、札幌からドクターヘリが出動し、美唄まで5分から10分程度で到着。その後、救急車と合流し3次医療のフライトドクターが診断し搬送先を判断するそ



うです。

出勤事例では、交通事故やけが、仕事での事故などがあり、その中でも急病が多くを占めていて、状態により市立美唄病院や砂川市立、高次医療の病院へと運ぶそうです。病院に搬送すると、最初はエピネフリンという心臓を強くする薬を使用したり酸素吸入を行ったりして、心臓を動かし脳に酸素を送るそうです。そして、その脳に酸素を送るということが、救命をする上でとても大切なことであること教えていただきました。

脳には酸素が必要で、心臓が止まると酸素が行き渡らず欠乏してしまい、数分後に心臓を動かし酸素を送り始めても、意識が戻らないなどの社会復帰ができなくなる可能性のある、とても弱い臓器なのだそうです。誰かが倒れて心臓がとまり、119番してから消防の救急隊員が到着して心臓を動かしても間に合わないことがあるそうです。そのため救急隊員が到着するまで、私たちがAEDを使用したり、胸骨を圧迫して脳に血液を送ってあげる事ができれば、倒れた方が社会復帰できる状態に回復する見込みがあるそうです。



（裏面へ続く）

さて、AED 除細動器は市内に 50 カ所ほどに設置されているそうです。皆様設置場所をご存じでしょうか？日頃から確認しておきたいと思います。そして、誰かの救命にかかわるような現場に出合ったら、まず大声で応援してくれる人を呼ぶ、数人見えたらその方たちと連携して、一人には 119 番救急車を呼んでもらう。ここでポイントは、必ず電話番号の 119 番を忘れずに言えるように日頃から覚えておくことが大事で、意外と簡単なようでとっさの時には思い出せないことがあるようです。



さらに、もう一人には AED を必要なら持って来てもらい、救急車が到着するまでに倒れた方の応急手当をすることなどの、心肺が停止した時の対処と AED の使い方を教わりました。この後実際に、AED と心肺の動きが人間と同じダミー人形を使った救命の体験の指導があり、皆様は必死になって胸骨圧迫を行うなど学んだ事を人形に対して実践しました。ここでは、一応分かったつもりですが、実際にその場に遭遇したら落ち着いて出来るのか不安もあります。それでも、尊い人命救助の為に、勇気を出して少しでも役に立つようにと思いました。（近藤肇子）

女性活躍推進法が成立しました

平成 27 年 8 月に「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（以下女性活躍推進法）」が成立しました。

これまで、国や地方公共団体では、男女共同参画基本法に基づき男女共同参画基本計画を策定し、女性の継続就業や再就職支援などの取り組みに努めてきました。また、各事業主における取り組みについては、自主的な取り組みとされてきました。

この法律では、これらの取り組みの実効

性をさらに高め、働くことを希望する女性が、職業生活においてその個性と能力を十分に発揮して活躍できるよう、国や地方公共団体が必要な施策を策定実施することのほか、女性の活躍の場を提供する事業主が、女性の活躍に関して、現在の就業状況を把握し課題を分析した結果から推進に向けた行動の計画を策定し、その情報を公開することが義務付けられました。

（次ページへ続く）

この法律により、現在働いていないが就業を希望する女性、責任ある立場で働きたいけども家庭生活との両立が困難であるがゆえに昇進をあきらめている女性、正社員として働くことにチャレンジしたい女性など、働く場面で活躍したいという希望を持つすべての女性はその個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するための、極めて大事なエンジンとして機能することが期待されています。



また、女性が活躍できる場を充実させることは、男女が共に仕事と生活を両立でき（ワーク・ライフ・バランス）、すべての人にとって暮らしやすい社会の実現とその持続につながるものと考えられています。



男女共同参画社会・・・

私たち一人ひとりが持っている「男らしさ」「女らしさ」についてのイメージや考え方にとらわれず、一人ひとりが平等に扱われるべきであるという考え方から、社会の対等な構成員として、自らの意志によってあらゆる分野での活動に参画する機会が確保され、均等に利益を受け共に責任を担える社会です。

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）・・・「ワーク（仕事）」と「ライフ（仕事以外の生活）」の時間を個人の生活の中で、各自が希望する「バランス」をとれるようにしましょうという考え方です。仕事だけに追われる生活では、仕事で今以上の成果を挙げるために知識を深めたり人脈を広げることもできません。業務の効率を上げるためにも仕事と生活時間のバランスをとれる環境づくりは大切なことです。



DV・デートDVに悩む方のための相談窓口

市や道では、配偶者や交際相手からの暴力等に悩む方からの相談をお受けしています。配偶者の方については「配偶者からの暴力の防止および被害者の保護に関する法律」により、専門の相談や必要に応じて一時保護、配偶者の接近禁止などの申立制度などが定められています。配偶者暴力やデートDVでお悩みの方は、下記までご相談ください。



●美唄市役所企画課広報情報グループ ☎ 0126-63-0113（平日8時45分～17時15分）

●配偶者暴力相談支援センター（空知総合振興局内） ☎ 0126-25-5648（平日9時～17時）

デュオの会屋外活動

デュオの会では、同会の存在や活動内容を知っていただくため、8月の歌舞裸まつりと2月の雪んこまつりにおいて、来場者の方に会報配布などを行い、PR活動をしています。

今後もより多くの方に「男女共同参画」について知っていただくために、さまざまな活動を行っていきますので、会報「Duo」をぜひご一読ください。



8月の歌舞裸まつりでの啓発活動風景

Duoの唄

このコーナーでは、主に会員から寄せられた、男女共同参画に関するさまざまな思いを綴った唄を掲載しています。特に決まった形式ではなく、身近な生活の中で感じたことや疑問に思っていることなどを、川柳のような短い言葉で表現したものです。

会員以外の方からの唄も大歓迎ですので、自身で作った句を、ぜひ会報に載せてみませんか？興味のある方はぜひ事務局まで。

子の誕生
昔、夫は分娩室のローカをウロウロ
今は夫も分娩室と一緒にヒーヒー
ペンネーム ひまわり

女でも休んでいいのよ 家事育児
ペンネーム Y子

編集後記

放送中のNHK連続テレビ小説「あさが来た」は、最近の私の毎日の楽しみ。激動の幕末から大正時代を、「びっくりポン」などと明るくテンポの良いセリフで楽しませてくれるドラマです。このドラマのヒロインは、まだ女性が学ぶ事や事業などにかかわることが普通ではなかった時代に、父親に叱られても止むことがなかった好奇心と沢山の人の出会いから、実業家であり教育者にも成長するスーパーレディー。参政権のない時代に、ここまで成長した彼女のまわりには、男女問わず夫をはじめとする家族や師、友の理解と協力があってからと、今に必要なことを教えてくれる素敵なドラマです。(E子)

「美咲市男女共同参画推進協議会（通称Duoの会）」会員募集中！

新規会員を募集しています。男女共同参画社会づくりに向けて学習し、家庭や職場・地域で身近に取り組める実践を目的としています。興味のある方は、ぜひご連絡ください。

◆入会申込・問合せなど◆

事務局（美咲市役所企画課広報情報グループ内）TEL 0126-63-0113へ